平成 20 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」

時　田　　純（ときた　じゅん）
高齢者総合福祉施設　潤生園

【授賞理由】

時田氏が唱える「人は人として存在するだけで尊い　真の福祉は人のいのちの尊さを知り個人の人格をこころから敬愛するところからはじまる」という理念は，ケアを実践する者にとって最も大切なものでありケアの基本といえるものです.
これらの活動は，認知症ケア賞（功労賞）受賞が相応しいといえます.

【略歴】

1949 年 4 月～1963 年 3 月	小田原市役所民生部
1963 年 4 月～1975 年 4 月	小田原市議会議員
1977 年 6 月～	社会福祉法人小田原福祉理事長
1978 年 5 月～	高齢者総合福祉施設潤生園園長

【活動内容；地域への貢献】

社会福祉法人小田原福祉会理事長，高齢者総合福祉施設潤生園園長時田純は 1978 年から現在まで 30 年間，高齢者の介護に努めてきました．その主な業績と活動は次の通りです.

1. 当法人は 1978 年創設に当たり「人は人として存在するだけで尊い．真の福祉は人のいのちの尊さを知り，個人の人格を心から敬愛するとことからはじまる」との理念を掲げ，重度者を積極的に受け入れましたから，開設と同時に重度認知症の人の介護を経験することになりました．冬至は認知症ケアの文献はほとんどなく，試行錯誤の連続でしたが，まず寝かせきりのゼロを実現すること，おむつの随時交換やおむつはずしの実践・自然排泄のリズムを整えるなど心身のケアを徹底し，併せて良質な施設環境の実現に努め，1994 年には施設内のグループケアを実現して，徘徊のない介護に先鞭をつけるなど先駆的な役割を果たしてきました.
2. 1980 年代の初頭から次第に，脳卒中後遺症による嚥下障害者が増え，次いで認知症末期の人の嚥下困難者が出現してきました．食事の経口摂取や水分補給は困難になり，入院してもらうと死の転帰を辿る人がほとんどでした．そこで 1983 年から研究者の参加を求め，チームで組んで「介護食」の研究開発に着手し，毎年学会発表を繰り返した結果，8 年後の 1991 年ににほん栄養改善学会より「学会賞」の授与を受けました．今や「介護食」は看護・介護現場に普及し，日本の介護に革命をもたらしたと評価されています.

3. 潤生園は創設時から高齢者が要介護になっても可能な限り，住み慣れた地域で生活が継続できるよう，1990 年に 365 日昼夜 2 食の配食サービスを開始，現在約 4 万食を配食，1993 年から 24 時間，365 日訪問介護を実施，1992 年には認知症高齢者の「毎日型小規模通所介護施設・やすらぎの家」第 1 号を創設，現在 11 ヶ所を整備しているほか，行政との連携を強め，地域包括支援センター・地域夜間対応型訪問介護の受託など，在宅介護のモデルと評価されています.
4. 潤生園は創設時に「施設は最期の受け皿」と位置づけ，医療との連携により在宅ターミナルケアの実現を目指してきました．そのため 1998 年には訪問入浴や訪問看護ステーションを事業化するなど，条件整備に努めてきましたが，家族の介護力が低下していること，地域医療の環境が整わないこと，また死に逝く人のほとんどが認知症高齢者で家族介護が困難なこと等により，当園での看取り希望が増加し，開設以来 30 年間に 344 名の方を施設内で看取りました．その背景には，当園の施設ケアに対する絶対の信頼があると確信しています．今後も一層の信頼を高め，社会貢献に努める所存です.